



農作業メモ

土壌消毒剤の安全使用について

土壌消毒剤の効果を上げるには

土壌消毒剤のほとんどは「土壌中で成分がガス化し効果をあらわす」ので、使い方が不適切だと効果が得られないばかりか、思わぬ事故の元になります。

薬剤の特性を把握し適切な使用方法により確実に効果を上げてください。

1 事前のていねいな耕耘・砕土

砕土が不十分であると有効成分（ガス）の拡散が不十分で、消毒できない部分が残ります。土壌の空隙も多くなるため、被覆が遅れるとガスが揮散して効果の低下や事故の元にもなります。

2 適切な土壌水分

土壌水分過多ではガスの拡散が悪く、過乾燥はガスの揮散が速すぎます。土壌中の水分で有効成分がガス化する薬剤（バスマイドやガスタード）では、過乾燥では有効成分のガス化が不十分

となり、効果不足とともに薬害の原因になります。手で握ってベトつくようであれば水分過多、形が残らずすぐにポロポロ崩れるようなら水分不足です。握った手を離して、形は残るが小ヒビが入る程度が理想です。

3 適度な地温

ガス化やガスの拡散は温度によって変わり、地温15℃以上が適します。ガスタードは10℃以上、クロルピクリン剤では7℃以上、デイ・トラベックスやキルバーは10℃以上の時に使用します。

4 所定の施用量を守る

ラベルの記載事項を守りましょう。

5 ガスの揮散防止のための被覆

手間のかかる作業ですが、薬剤を確実に効かせるためには処理後の被覆は必要です。ガスの揮散防止には農作業は農ボリが優れます。どうしても被

覆できない場合はローラーで鎮圧をします。薬剤によってはクロルピクリン剤のように被覆が義務づけられているものもあるのでご注意ください。

6 ていねいなガス抜き（耕耘）

所定の期間経過後、2〜3回耕耘してガス抜きをします。成分が残っていると薬害を起こすことがあり、ガスの臭い（刺激臭）や油の臭いがするうちはガスが抜けきっていません。

クロルピクリン剤使用にあたり特に注意する点

土壌消毒剤のなかでもクロルピクリン剤は、容易にガス化し、催涙を伴う強い刺激臭があることから、使用者自身の安全に十分注意するのはもちろん、使用場所、周辺の環境に対する十分な配慮が必要です。

1 保護メガネ、防護マスクの着用

使用者の安全のために保護メガネ、防護マスクを着用してください。

2 シートでの被覆

シート被覆は、農業登録で義務付け

られています。

注入が終わったら直ちにポリエチレンビニールなどのシートで表面を覆います。

シート被覆は、ガス漏れを防ぎ、薬剤の効果を高めると同時に作業中、隣地帯への影響を少なくします。

3 住宅、畜舎、鶏舎周辺での使用

ガスによる危被害の発生を防止するため以下の事項に留意します。

① 高温期の処理を避け、気温の低い時期に処理するのが望ましい。

② 住宅、畜舎、鶏舎が風下になる場合、処理を控えること。

③ 被覆資材は、厚めのもの（0.03mm以上）を使用すること。

④ 風の強さや向きが変わり、危被害を及ぼす恐れがある場合は、ガス抜き作業を中断すること。

農薬の使用に当たっては、使用基準の遵守だけでなく、飛散防止、防除日誌の記帳、保管管理の徹底、空き容器等の適切な処理、周辺環境に対する十分な配慮をしてください。

（大里農林振興センター農業支援部）